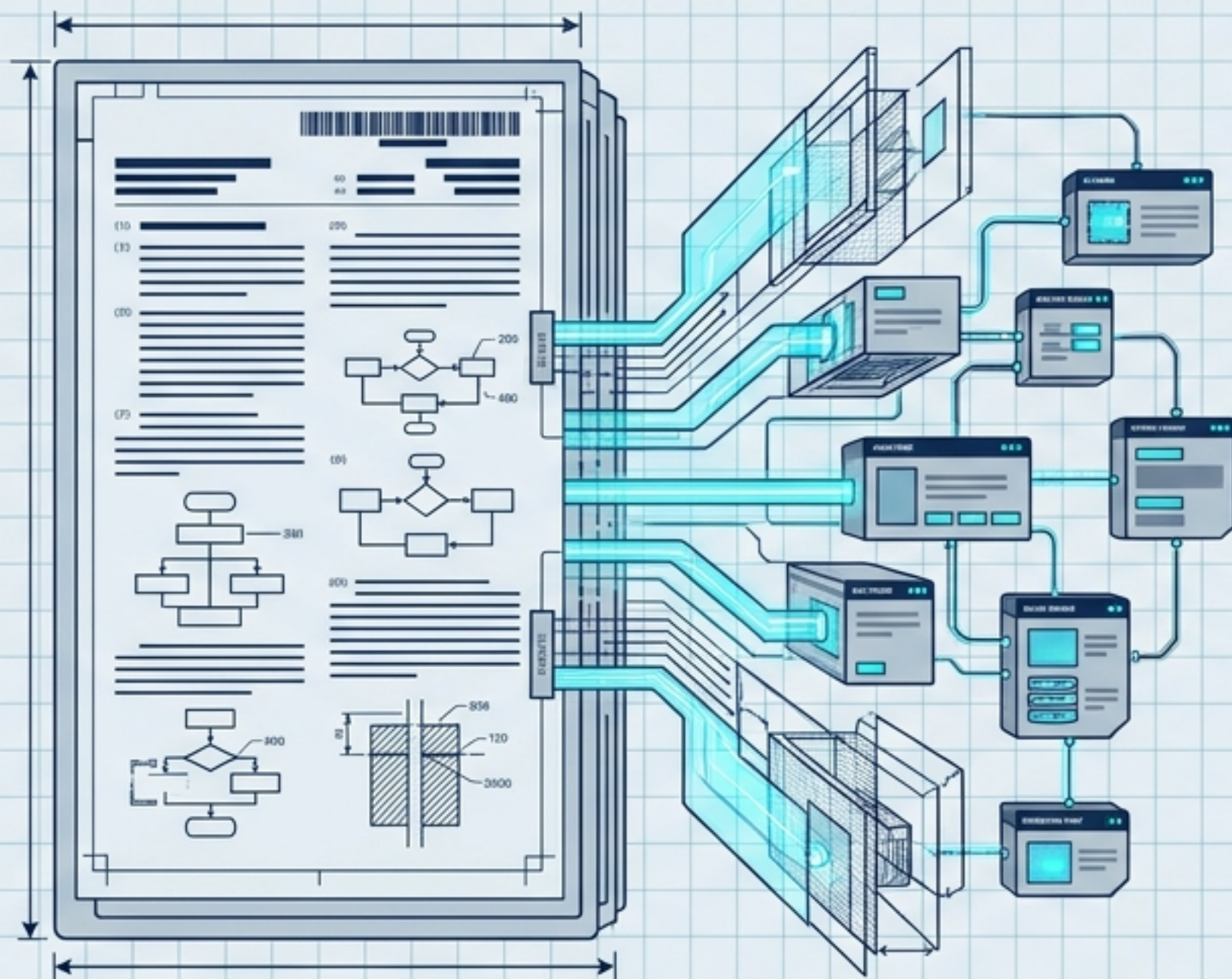


STRATEGIC IP TECHNOLOGY REPORT

欧米・日本 知財AIプラットフォーム 比較調査2026

Agentic IPの現在地と、
日本企業がとるべき
「ベスト・オブ・ブリード」実装戦略



現状の誤解

「AIエージェント」という単語の魔力。検索、生成、規則チェック、フルサービス全て責任範囲が異なります。比較軸は「製品名」ではなく「対象業務と証拠レベル・人の承認点」であるべきです。

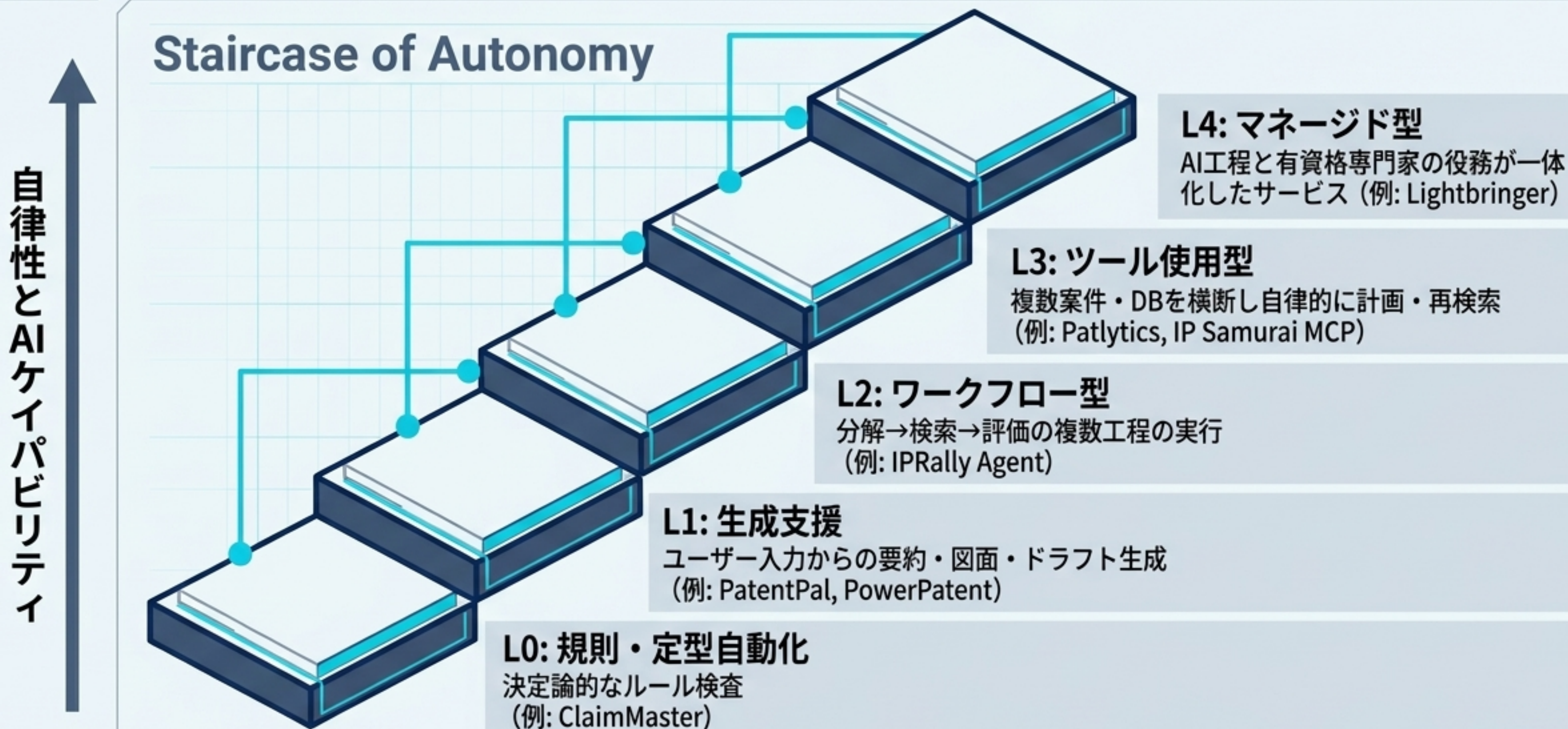
欧米 vs 日本

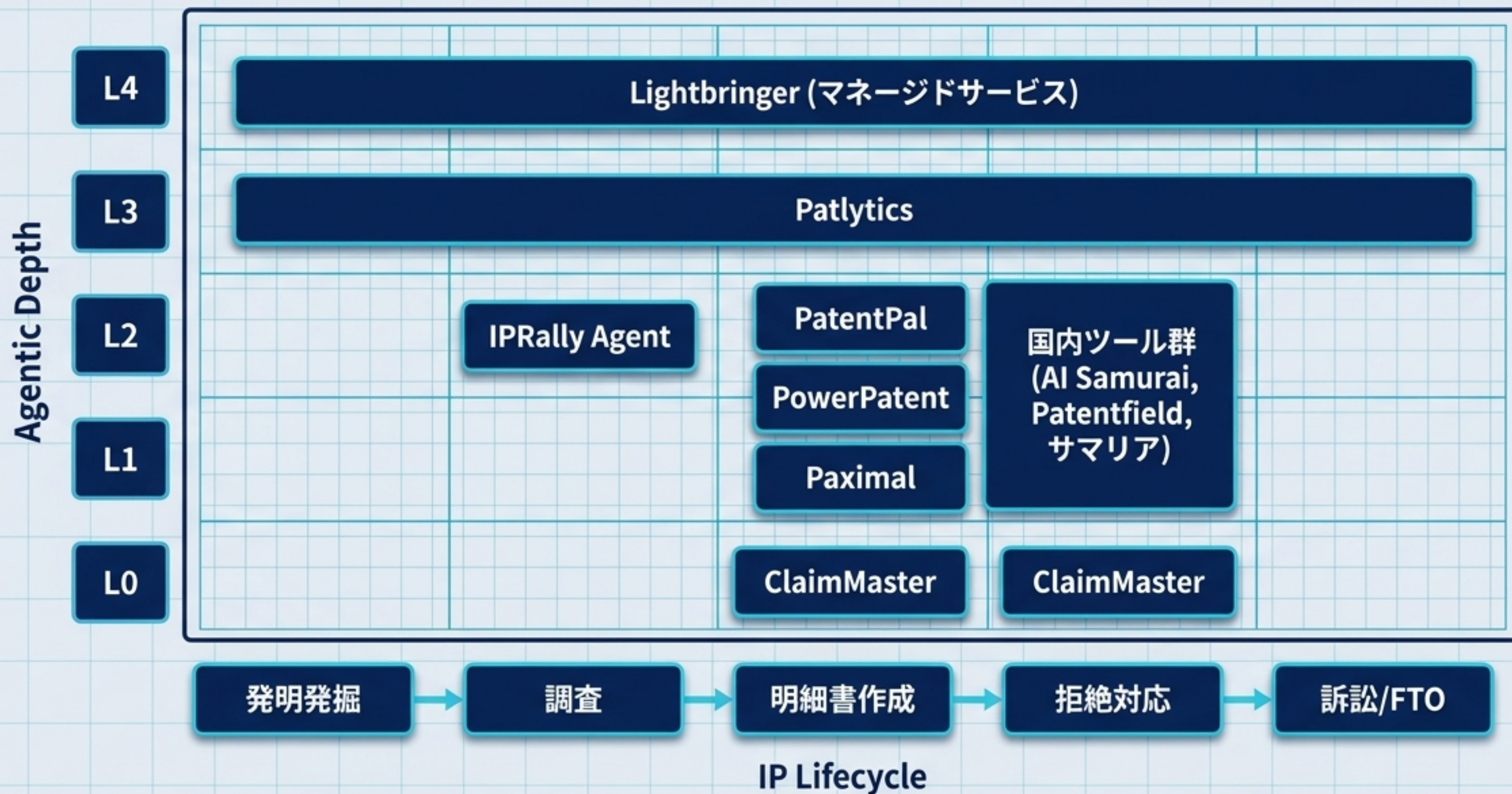
異なる進化の方向性。欧米勢は「クレーム単位の証拠追跡」と「訴訟・OAまでの全ライフサイクル」で先行。日本勢は「JPO実務適合」と「R&D現場への導入性」に強みを持っています。

最適解

ベスト・オブ・ブリード構成。現時点で単一製品への依存は非現実的です。国内ツールを役割分担させ、専門家の承認ゲートを挟むモジュラー型のITアーキテクチャが日本企業の現実的な実装解です。

⚠ 高リスク案件では低自律・高検証性が求められる（レベルの高さ＝優位性ではない）





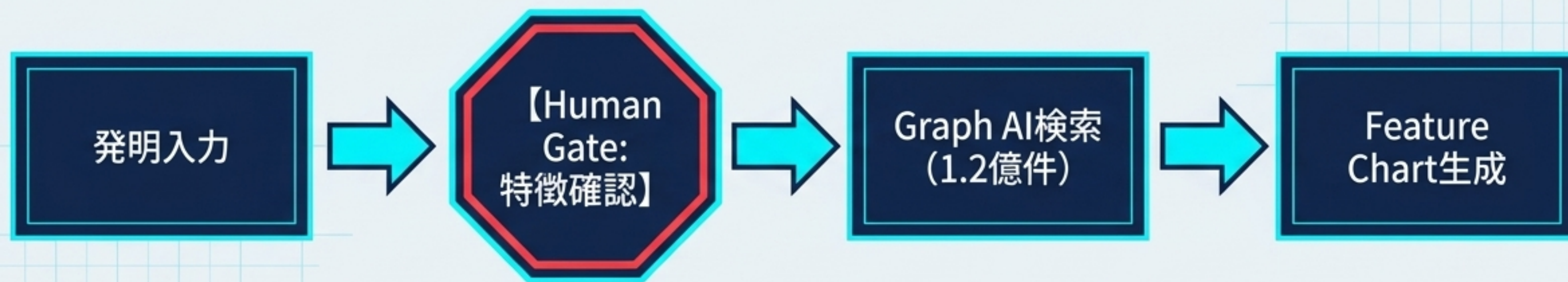
単一のツールであらゆる工程を最高レベルでカバーできる「魔法の箱」は存在しない。

US/EU Deep Dive 1: 検索・証拠追跡の最前線

IPRally Agent (フィンランド) / Agentic Level: L2

ブラックボックスからの脱却

Glass Box Search Process



Core Capabilities

- 発明開示をクレーム候補と「技術的特徴」へ分解。
- 審査官引用で学習したGraph AIを使用し、キーワードの揺れを超えた検索を実行。
- 特徴単位で証拠を追跡する「Interactive Feature Chart」を出力。

Limitation Note

※ 2026年7月時点のAgentは新規性・特許性調査が中心。FTO・無効・NPLはロードマップ。

US/EU Deep Dive 2: 包括的ライフサイクル統合

Patlytics (米国) / Agentic Level: L3

同一基盤でのエンドツーエンド連携



Capabilities

- 検索から訴訟・権利化まで同じデータ形式・クレーム解釈で連結。
- PDFやPPT等の製品資料から特徴を抽出し、構成要件単位 (limitation-level) の対比表を生成。
- Am Law 100の40%が利用。

Verification Note

【PoCでの検証必須事項】
日本語・JPOのOA文書様式や均等論への適合性は、日本企業の実務において慎重な検証が必要。

US/EU Deep Dive 3: ドラフティングと品質監査の分担

Creation / 生成 (Generative AI)

PowerPatent (L1-L2)

クラウド型の明細書初稿作成。
クレーム・図面起点で本文を生成。

Paximal (L2)

複数エージェントで用語とクレーム支持を整合させる弁理士主導ドラフト。

PatentPal (L1)

クレームから仕様書・図面をワンクリック生成。エラー修復ツールではない。

QA & Automation / 監査 (Deterministic Rules)

ClaimMaster (L0-L1)

Wordアドイン型の品質監査。

- 生成AIが見逃す論理的エラー
(先行詞欠如、誤った従属関係)
を決定論的に検出。機密文書を
ローカルで処理。

US/EU Deep Dive 4: 「SaaS」ではなく「サービス」

Lightbringer (欧州発) / Agentic Level: L4

L4 マネージド型サービス

1

AIツールを顧客が操作するのではなく、プラットフォームを用いる弁理士付きの役務一体型提供。



3

Strategic Insight

比較対象はSaaSのライセンス料ではなく「従来の特許事務所との契約」。国内弁理士との役割分担の明確化が必須。

2

ドラフト、出願、OA、国際展開までを固定価格 (Starter: €5,999~/件) で担う。

Japan Landscape: 急速な進化と統合 (2025-2026)

AI Samurai (ONE / MCP)

検索・評価から「MCP (L3)」へ進化。Claude等と連携し、IPランドスケープを約30分で実行。



Patentfield

約8,000万件の文献を基盤とする大規模AI査読。API/AIRによる生成機能の統合。



サマリア (Samaria)

JPOの拒絶対応・無効化書面・明細書ワークフローに極めて高く適合。弁理士レビューを前提とした設計。



Tokkyo.Ai

社内技術文書を起点とするR&D現場の発明発掘・探索に強み。



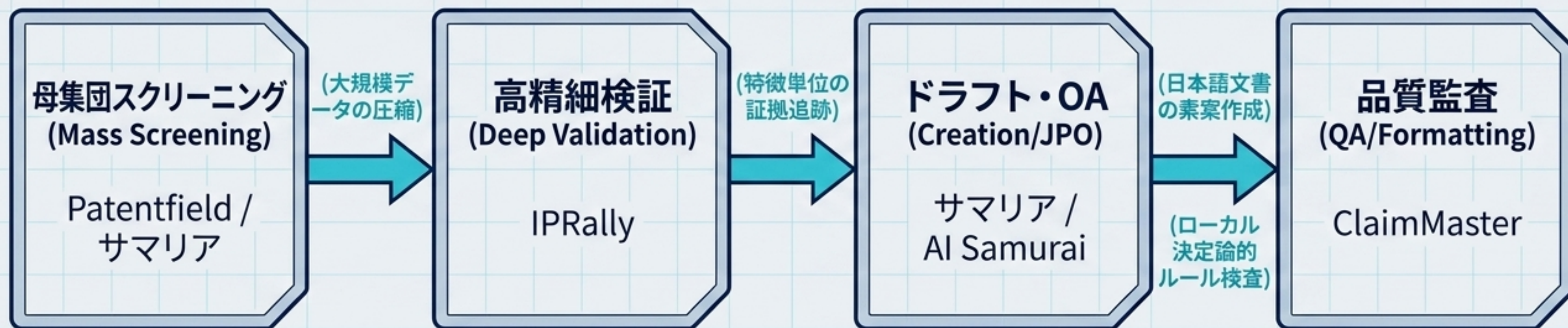
Comparison Matrix: 欧米勢 vs 日本勢

評価軸 (Dimensions)	欧米勢 (EU/US Tools)	日本勢 (Japanese Tools)
クレーム要素単位の証拠追跡	●	◐
訴訟・FTO対応	●	○
日本語・JPO実務適合	◐	●
研究開発現場への導入性	◐	●
コストの透明性・固定化	○	●

Synthesis Insight

日本市場において、現時点でPatlyticsと完全に一対一で対応する単一の統合製品は見当たらない。訴訟/FTOの欧米勢、実務/R&Dの日本勢という明確な棲み分けが存在する。

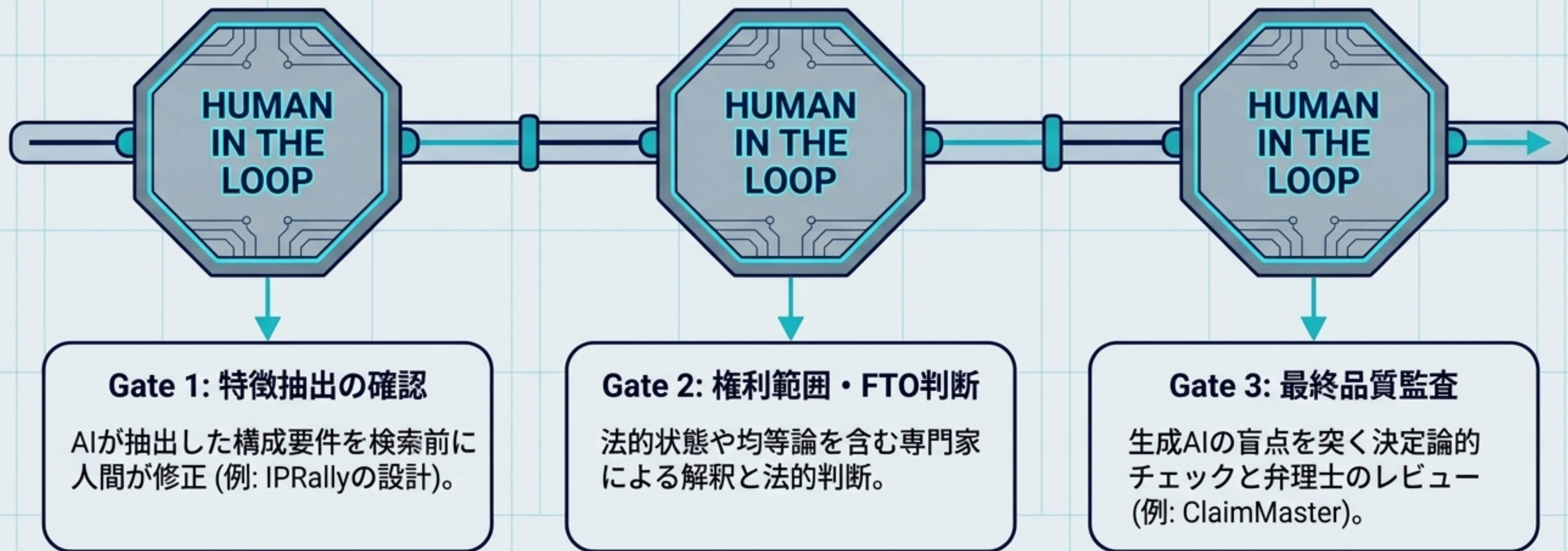
The Synthesis: 「ベスト・オブ・ブリード」アーキテクチャ



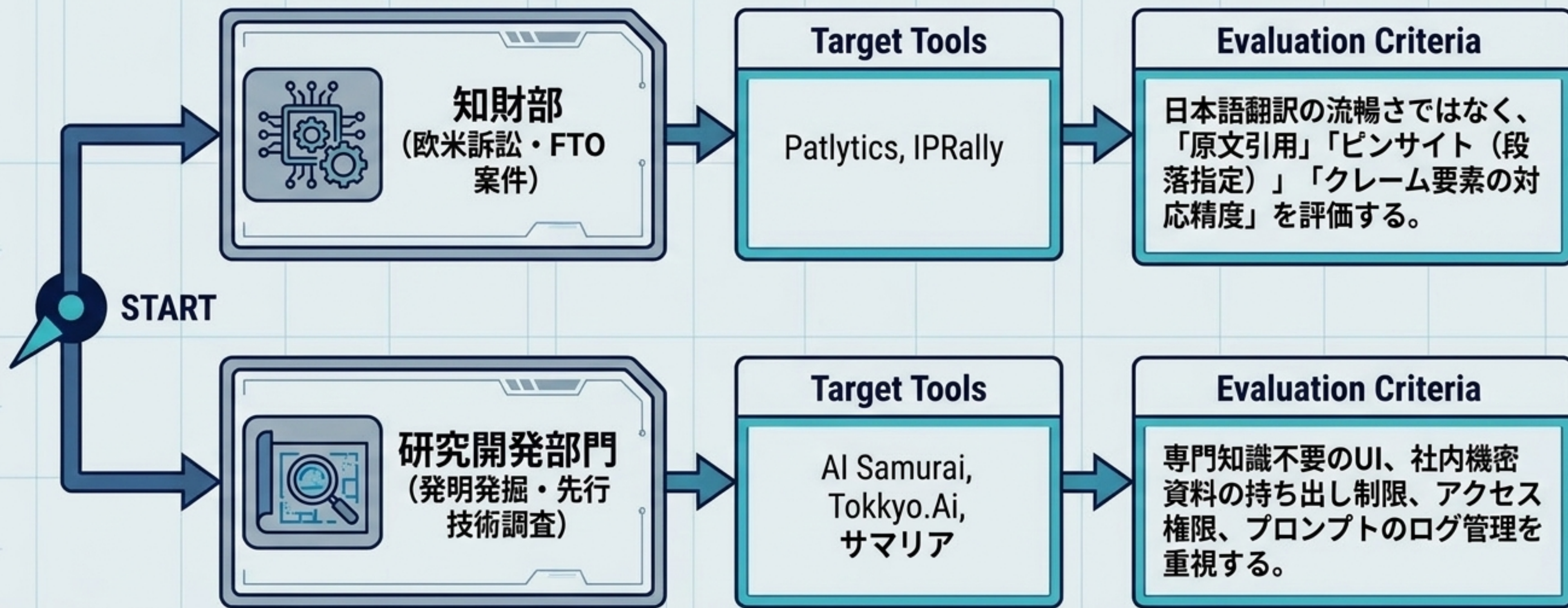
単一システムへの依存リスクを避け、
工程ごとに最高峰のツールを連携させ、監査証跡を連結する

Governance: 承認ゲートの設計 (Human-in-the-Loop)

Key Principle: AIの出力は法律意見ではなく「出発点」。無資格者による全自動出願は弁理士法75条の観点からリスク。



導入戦略: 導入戦略: ユーザー別アプローチ



PoC成功のためのチェックリスト

- ☐ **対象業務の特定:** 「AIエージェントが欲しい」という曖昧な要求を捨て、工程（検索、QA、OA等）を絞る。
- ☐ **証拠レベルの確認:** 出力は文書単位か、請求項・段落の粒度まで追跡可能か？
- ☐ **データ処理とセキュリティ:** 入力データの学習利用の有無、暗号化、処理地域（国内か？）を確認。
- ☐ **総TATの計測:** 単なる「AIの生成時間」ではなく、「人間によるファクトチェックと修正を含めた総時間」で費用対効果を測定する。

Appendix / リファレンス

- 本報告書は「欧米_日本_知財AIプラットフォーム比較調査_2026年7月 GPT-56 Sol.pdf」のデータに基づき構成されています。
- AIプラットフォームの機能進化は極めて迅速です。契約・PoC実施時には、本書記載の機能（特にロードマップ機能）の実装状況および対象法域における最新の適合性を再度ベンダーに確認してください。